市長記者会見記録

日時：２０２４年２月６日（火）１４時００分～１５時１７分

場所：本庁舎２階　記者会見室１・２

議題：令和６年第１回川崎市議会定例会議案等について

＜内容＞

【議題】

≪令和６年第１回川崎市議会定例会議案等について≫

【司会】　ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は、「令和６年第１回川崎市議会定例会議案等について」となっております。令和６年度川崎市予算案のほか、令和６年度の主な組織改正及び議案について福田市長から一括して御説明いたします。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】　それでは、令和６年第１回市議会定例会の準備が整いまして、２月１３日火曜日招集ということで本日告示をいたしました。今定例会に提出を予定しております議案は、条例２４件、事件１３件、予算１９件、補正予算９件、報告１件でございます。

それでは、初めに令和６年度予算の概要を御説明いたしますので、お手元の白い冊子「令和６年度川崎市予算案について」を御覧いただきたいと思います。それでは、表紙をおめくりください。

右側上段に「はじめに」とございますが、こちらは令和６年度予算に対する私の考え方でございます。１段目は国の経済動向でありますが、我が国の経済は緩やかに回復している一方で、取り巻く情勢には十分注意する必要があるとされております。このような中、本市では市税収入等は増収が見込まれているものの、ふるさと納税による減収がさらに拡大し、物価高騰の継続や新たに生じた行政需要に対する国の財政措置が十分でないなど、引き続き厳しい環境にございます。

こうした中において、今年は市制１００周年という歴史的な節目を迎えます。これまでの歴史を振り返り、本市の発展に寄与された方々へ感謝をするとともに、市民の皆様に改めて川崎を知って、関わって、好きになっていただく様々な取組を進め、次の１００年に向けた「あたらしい川崎」を生み出すスタートラインとしてまいります。その象徴的な事業として、全国都市緑化かわさきフェアを開催し、あらゆる世代の方々がまちの緑に関わっていく取組を推進してまいります。また、多発する災害に備えるための防災・減災対策や、社会保障、都市機能の充実など、将来を見据えて乗り越え

なければならない課題に的確に対応できるよう、総合計画第３期実施計画に基づく取組を進め、基本構想に掲げる「めざす都市像『成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち　かわさき』」の実現を目指し、次の考え方を基本に編成を行いました。

まちに対する愛着を育てる「成熟」戦略では、川崎らしい地域包括ケアシステムの構築に向けた取組、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、地域における多様なつながりを深める取組や子育てを社会全体で支える取組を引き続き推進するとともに、若者を応援し、若者文化の発展を後押しする取組を進めます。また、保育所等における多子世帯への支援の拡充により、保護者の負担を軽減しながら、保育・幼児教育の質の維持・向上や児童家庭支援体制の強化など取組を推進します。

まちに活気や活力をもたらす「成長」戦略では、太陽光発電設備の導入促進や川崎未来エナジー株式会社の事業開始により、再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消など、２０５０年の脱炭素社会に向けた取組をさらに推進してまいります。臨海部では、水素を軸としたカーボンニュートラルの拠点形成をはじめ、大規模土地利用転換の取組を推進してまいります。また、道路交通の円滑化や災害に強いまちづくりに向けて、ＪＲ南武線連続立体交差事業の都市計画決定手続を進め、事業に着手してまいります。

「『成長』と『成熟』を支える基盤づくり」では、地域防災力の向上や救急隊増隊による救急体制の強化とともに、デジタル化や特別市の実現に向けた取組を進めます。また、今後も厳しい財政状況が続くことが見込まれることから、緊張感を持って行財政改革や財政健全化の取組を着実に進めてまいります。

それでは、予算の概要を御説明いたします。２枚おめくりいただきまして、６ページを御覧いただきたいと思います。「予算案のポイント」でございますが、一般会計予算は８，７１２億円で、２年ぶりの増となっております。市税収入は３，８５４億円で、前年度に比べ４３億円の増となっております。市債は６４２億円で、前年度に比べ１５億円の減となっております。なお、厳しい財政状況におきましても、「最幸のまち　かわさき」の実現に向けた取組を切れ目なく推進するため、減債基金からの新たな借入れを１５７億円行うことにより収支不足に対応しております。

次に、令和６年度の予算のトピックとして３点御説明させていただきます。

まず、８ページの「市制１００周年記念事業の取組」、１０ページの「全国都市緑化かわさきフェアの取組」につきましては、スライドにより御説明をさせていただきますので画面を御覧いただきたいと思います。先ほどもお話ししたとおり、令和６年度は市制１００周年という川崎市にとって節目の年でございまして、１００周年を契機

とした「あたらしい川崎」に向け様々な取組を進めてまいりたいと考えており、来年度行う記念事業の取組の概要についてこちらで説明をさせていただきます。

川崎市は大正１３年に、川崎町、御幸村、大師町が合併し、人口約５万人から市制がスタートいたしまして、工業都市としての発展や環境問題などを経て大都市へと成長し、現在でも多くの産業が集積し、音楽、スポーツ、文化など、多彩な魅力を有する活力ある都市として成長を続けております。こうした中、いよいよ市制１００周年の年を迎え、この歴史的な節目に川崎の歴史や文化を知り、先人の功績に感謝しながら、市民、企業、団体の皆様とともに記念事業に取り組むことで、多くの方々に川崎への愛着と誇りを持っていただくとともに、「あたらしい川崎」を生み出していくための成長の機会としてまいりたいと考えております。

川崎に関わる多くの皆様と一緒に記念事業を盛り上げていくため、実行委員会を設立し、ロゴマークや１５のActionテーマを設定いたしました。既に実行委員会に参画いただいている３５０を超える団体をはじめ、多くの方々とともに、改めて川崎を「知って」「関わって」「好きになる」取組を進めてまいります。

記念事業の全体像でございますが、記念事業を進めるに当たり、上段のバーで表現させていただいているように、大きく３つの時期に分け、それぞれの時期に取組の核を設けました。それぞれの取組の核についてはイメージ図に大きい円で表現しており、左上の紫色の円の「市制１００周年を記念する式典」、中央の赤色の円の昨年実施した「Colors, Future! Summit」、２つの緑の円の「全国都市緑化かわさきフェア」の４つでございます。これらの取組の核を中心に、実行委員会や市の主催により様々な事業を展開するとともに、市民の皆様などの自主的な取組と連携しながら、年間を通じて川崎市の１００周年を盛り上げてまいります。

ここから具体的な事業について御説明をいたします。かわさきフェアにつきましては、象徴的事業として、「川崎らしいみどり」を全国に向けて発信してまいりたいと考えております。開催時期は、資料中段にございますように、秋と春の２期開催の予定でございまして、会場は、富士見公園、等々力緑地、生田緑地の３つのコア会場を中心にしながら、市内全域を会場と見立てて、まちを彩ってまいります。コア会場の一つである富士見公園におきましては、かわさきフェアのスタートに合わせて、新たに完成する富士見公園のお披露目を行うとともに、都市の中の緑を立体的に表現し、身近に取り入れる要素を織り交ぜた展示などを行ってまいります。

等々力緑地におきましては、右下のイメージのように、ロングボーダーガーデンでの花摘み体験など、五感で感じる緑のアクティビティーを展開するとともに、地域で

活動する団体と連携しながら、既存の緑地や水辺を生かした取組を展開してまいります。

生田緑地におきましては、協働のプラットフォームである生田緑地マネジメント会議が主体となり、緑の価値や市民協働による緑地管理の歴史等を発信するとともに、豊かな自然資源を生かした楽しく学べる環境教育などを展開してまいります。

市民の皆様と協働で花を育て花を飾る取組を実施してまいりたいと考えており、令和６年度につきましては、特別支援学校を含む市内の全小中学校において、子どもたちに花を育て、植える体験をしていただくなど、緑のよさや地域を知っていただき、地域とつながるきっかけとしてまいりたいと考えております。

市制１００周年記念式典についてでございますが、市制記念日である７月１日、ミューザ川崎シンフォニーホールにおいて、市制１００周年を記念する式典を開催いたします。式典では記念映像の上映や混声合唱に混成オーケストラ、市の発展に寄与された方々等への表彰など、市のブランドメッセージである「Colors, Future! いろいろって、未来。」が感じられる演出を行い、川崎の魅力や歴史を再確認するとともに、シビックプライドを醸成する機会としてまいります。

「Colors, Future! Summit」についてでございますが、誰もが楽しめるフェスティバルと川崎の未来づくりのきっかけとなるカンファレンスを組み合わせた官民共創のイベントでございまして、昨年はプレ事業として「Colors, Future! Summit ２０２３」を実施いたしました。令和６年度は昨年の実績を踏まえ、市内で開催される様々なイベントと連携しながら、官民連携により、昨年以上に気軽に多様な楽しみ方ができるイベントとしてまいりたいと考えております。

「みんなの川崎祭」についてでございますが、かわさきフェアと開催時期を合わせ、富士見公園までの動線である市役所通りを歩行者空間にするとともに、その周辺を活用しながらにぎわいを創出するみんなの川崎祭を開催いたします。プレ事業として実施いたしました昨年は、非常に多くの皆様にお越しをいただきました。来年度はさらに規模を拡大して、居心地のよい空間を創出し、川崎の魅力や緑を身近に感じてもらえる仕掛けを実施いたしまして、今後も長く続くイベントとなるよう、公共空間の効果的かつ持続的な活用を目指してまいります。

「(仮称) かわさき飛躍祭」についてでございますが、市制記念日の直前の土曜日である６月２９日、等々力緑地をフル活用し、川崎ゆかりのアーティストによる音楽フェスや川崎が誇る魅力的なコンテンツを生かしたイベントなどを実施し、市制１００周年を盛り上げてまいります。

こちらからの４ページは、川崎市が主体の主な事業を取りまとめたものでございまして、各局が施策に取り組む中で、一歩先を目指すプラスアルファのチャレンジを行うものでございます。

左上にございますように、市制１００周年を契機に、再生可能エネルギーを利用した市役所通りのライトアップや、右上にございます、例年より内容を充実させた多摩川花火大会など、市制１００周年を盛り上げる様々な取組を進めてまいります。

こちらは、地域の特徴である取組でございまして、縦に長い川崎市の各地域の特徴や資源を生かしながら、地域で活躍する方々と連携し、市域全体で記念事業を展開してまいります。

こちらは、これからの１００年を担う子どもをターゲットとした取組でございまして、右側中段にございます、「学校ｅ～ねサミット」として、全ての市立学校において、私たちのまち川崎を学び、発表用のスライドなどを作成し、各学校の取組の共有や代表校による発表会を行うなど、子どもたちの成長・発達段階に応じて、まちに関わり、川崎を好きになる事業を実施してまいります。

こちらは１００周年のＰＲや川崎の歴史等を知ってもらう取組などを取りまとめてございまして、左上にございます「１００人１００通りのほっこりポスター」の作成や、右側にございます「川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える企画展」など、様々な記念事業を展開してまいります。３５０を超える実行委員会参画団体や市民の皆様に積極的にこの記念事業に参加いただきたいと考えており、交流・共創を促す交流会の開催や、記念事業として取り組んでいただく自主的なアクションについて、公式ウェブサイトやニュースレターなど効果的な情報発信を行ってまいります。

御覧のように、広告媒体のターゲットに応じて、メディアミックスで全世代に情報が届くように戦略的な広報を実施していく予定でございます。今年の１月から各拠点駅での横断幕等による１００周年のキービジュアル等の掲出が始まっており、既にどこかで御覧になったかもしれませんが、今後も広報集中期間を設けながら、市内主要駅等におけるラッピングなどのシティードレッシングを実施し、より多くの人の目に留まるよう展開してまいります。

こちらは、記念事業によって目指すレガシーを取りまとめてございます。記念事業に取り組む中で、多様な主体が力を掛け合わせて生まれたアクションや、シビックプライドの高まりを生かしながら、次の１００年に向けて、自らまちに関わり、まちを盛り上げる市民、企業、団体の方々とともに川崎を持続的に発展させ、新しい川崎を生み出してまいりますので、よろしくお願いいたします。

市制１００周年記念事業、全国都市緑化かわさきフェアの取組については以上でございます。

それでは、予算案についてお戻りください。１２ページに参りまして、３点目のトピックとして、「災害に備える・防災に関する取組」について御説明いたします。年明け早々に発生した能登半島地震では、大きな災害が発生いたしました。日頃から災害に備えることは大変重要であると改めて認識したところでございます。本市におきましても、行政と市民の方々が一体となった災害に強いまちづくりを推進しており、備蓄倉庫の整備や地域での防災訓練の実施など様々な取組を進めてまいりました。令和６年度はこちらの記載の取組を進め、災害への対応力をさらに強化してまいります。

１３ページに参りまして、下段の「令和６年能登半島地震への対応」でございます。これまでも職員の派遣や市営住宅の提供等、被災地の支援を行ってまいりましたが、令和６年度におきましても、皆様からいただいた御寄附等を活用させていただき、被災者の方々に寄り添った支援を行ってまいります。

１４ページに参りまして、予算の規模でございます。表にございますとおり、一般会計は８，７１２億円、前年度に比べ０．５％の増で、全会計では１兆５，９０４億円、１．８％の増となっております。

１６ページに参りまして、一般会計の歳入予算でございます。主なものといたしまして、表の下、市税は３，８５４億円で１．１％の増となっております。これは定額減税の影響等により、個人市民税が前年度並みとなる一方、法人市民税及び固定資産税が増となったことによるものでございます。

右の１７ページに参りまして、１段目の地方特例交付金は１１８億円で大幅に増えております。これは、定額減税による減収額が国費により補塡されることによるものでございます。

１８ページ、１９ページに参りまして、一般会計の歳出款別予算でございますが、こちらは後ほど御覧いただきたいと思います。

２０ページに参りまして、性質別の歳出予算でございます。表の下、義務的経費は４，７８８億円となっておりまして、前年度から２１８億円、４．８％の増、歳出予算の５４．９％を占めております。その内訳でございますが、２１ページに参りまして、人件費は、退職手当の増や期末勤勉手当の増などにより１０７億円の増、扶助費は制度拡充による児童手当扶助費の増や障害福祉サービスの給付費の増などによりまして８７億円の増、中段、投資的経費は、ＪＲ南武線連続立体交差事業の着手等による増があるものの、橘処理センターの整備完了による減などによりまして３１億円の減と

なっております。

２２ページに参りまして、「令和６年度予算における『かわさき１０年戦略』の主な事業」でございます。説明の左側に印のある新規・拡充事業を中心に御説明いたします。

戦略１の、「みんなで守る強くしなやかなまち」でございます。「国土強靱化の推進」でございますが、「災害情報通信システムの整備推進」として、防災行政無線等の整備及び防災ラジオを導入いたします。「不燃化の取組やまち全体の耐震化の推進」では、老朽建築物の除去や耐火性能強化等への助成を拡充いたします。

２４ページに参りまして、「地域防災力の向上」では、高齢者、障害者等の個別避難計画を作成いたします。「消防力や救急医療体制の強化」では、日中運用する救急隊を令和６年度及び７年度に１隊ずつ増隊し、それに伴い必要となる救急救命士の養成や救急車の増車を行います。

２５ページに参りまして、「気候変動に伴う風水害への適応力の強化」でございますけれども、平瀬川・多摩川合流部の堤防整備工事に着手をいたします。

下段、戦略２の「どこよりも子育てしやすいまち」でございます。「希望する誰もが安心して子どもを預けられる環境づくり」では、２６ページに参りまして、保育受入れ枠の確保に引き続き取り組むとともに、認定R園の保育士等の処遇改善等加算を市独自で行うほか、囲みにございますとおり、保育所等の利用における多子世帯支援として、利用調整基準の見直し及び保育料のきょうだい減免を拡充いたします。

「子どもがすこやかに育つ安全な環境づくり」では、「ひとり親家庭支援施策の推進」として、養育費履行確保のための公正証書による取決めに係る費用に対する支援を強化いたします。また、子ども発達・相談センターを中原区と高津区に整備いたします。これにより、７区での整備が完了いたします。

２７ページに参りまして、「子ども・若者の安心できる居場所づくり」では、不登校傾向にある児童生徒に対する別室指導のモデル実施を行います。また、「放課後等の子どもの居場所づくり」として、子どもの意見を取り入れた居場所づくりの試行を行います。「未来を担う人材の育成」では、「学校図書館の充実」として、学校司書の配置を拡充し、小学校全校への配置を完了いたします。

「『かわさきＧＩＧＡスクール構想』の推進」といたしまして、学習履歴を効果的・効率的に活用することで、児童生徒の効果的な学びの環境を整備いたします。

２９ページに参りまして、戦略３の「みんなが生き生きと暮らせるまち」でございます。中段、「健康寿命の延伸に向けた取組」ですが、健康意識を高める取組である「か

わさき　ＴＥＫＴＥＫ」を通じて、皆様からいただいたポイントの小学校への還元を開始いたします。

３０ページに参りまして、中段の「社会的・経済的自立に向けた取組の推進」では、「障害者の特性に応じた就労等に向けた取組の推進」といたしまして、障害者と企業とのマッチングや雇用を検討している企業の相談支援体制の強化を図ってまいります。

下段、戦略４の「もっと便利で快適な住みやすいまち」でございます。３１ページに参りまして、下段、「幹線道路網の整備・局所的な渋滞対策」では、「ＪＲ南武線の連続立体交差事業」につきまして用地取得等に着手してまいります。

３２ページに参りまして、「身近な交通環境の形成によるコンパクトで暮らしやすいまちづくり」では、「コミュニティ交通の支援」として、民間事業者と連携して行う取組に対する継続的な支援を拡充するとともに、国や交通事業者と連携して、自動運転バスの実証実験を行います。

「緑と水の環境形成」でございますが、「市民参加型の緑化フェアの開催」につきましては、先ほど御説明したとおりでございます。また、王禅寺四ツ田緑地におきまして、民間活力を導入し、緑地の保全と利活用の両立を図ってまいります。

「魅力にあふれる公園緑地のパークマネジメント」でございますが、「新たなみどりの担い手の確保・育成に向けた取組等のグリーンコミュニティの形成の推進」につきましては、公園の担い手等に対する中間支援を試行的に導入し、「みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園」づくりを推進してまいります。

３３ページに参りまして、中段の戦略５の「世界に輝き、技術と英知で、未来をひらくまち」でございます。「脱炭素化の推進」では、「市民・企業等との協働による温室効果ガス削減」をさらに進めてまいります。

拡充の１つ目、溝口周辺での「脱炭素アクション　みぞのくち」の取組として、戦略的な広報活動を強化し、事業者の巻き込みを図ります。拡充の２つ目、新たな事業者計画書・報告書制度の運用を開始いたします。拡充の３つ目、共同住宅へのＥＶ用充電設備の設置支援を拡充いたします。

一番下、新たな取組といたしましては、再エネの地産地消を促進するため、住宅用太陽光発電設備や蓄電池等の設備導入に対する支援制度を創設いたします。

３４ページに参りまして、金融機関と連携した中小企業への補助制度の新設など、ＥＳＧファイナンス活用支援を強化し、脱炭素経営等を促進いたします。また、王禅寺処理センター等の廃棄物処理施設の基幹的整備に着手いたします。さらに、プラスチック資源一括回収の実施に伴う普及広報を実施いたします。

３４ページ下段から３５ページ上段にかけましては、その他の脱炭素R化の取組といたしまして、１０年戦略には位置づけられていない取組を紹介しております。

３５ページの上段､｢プラスチック資源一括回収の川崎区先行実施｣につきましては、令和６年４月に川崎から先行的にプラスチック資源一括回収を開始し、令和８年度には全市で実施するものでございます。脱炭素社会の実現に向けて多様な取組を進めてまいります。

３６ページに参りまして、｢中小企業の支援・商業の振興｣では、引き続きデジタル化支援等に取り組むとともに、起業家支援拠点Ｋ－ＮＩＣなどによるスタートアップの創出・成長への支援メニューを拡充してまいります。また、越境ＥＣを活用した海外へのＰＲ、競争力強化、販路拡大を支援してまいります。

３７ページに参りまして、下段、｢臨海部の活性化｣でございますが、３８ページに参りまして、｢大規模な土地利用転換の取組の推進｣といたしましては、扇島地区の交通基盤整備などの土地利用転換の実現に向けた取組を推進いたします。

下段、戦略６の「みんなの心がつながるまち」でございます。

３９ページに参りまして、中段、｢人権と多様性が尊重されるまちづくりの推進｣では、令和５年度末に策定予定の「地域日本語教育推進方針」に基づき、地域日本語教育の総合的な体制づくりに取り組みます。

「スポーツ・文化芸術の振興」では、４０ページに参りまして、｢若者文化の発信｣といたしまして、日常の施設としての若者文化創造発信拠点の移設に向けた新たな施設整備等に取り組みます。

４１ページに参りまして、｢協働により、心がつながるコミュニティづくり｣では、下段、｢学校施設の更なる有効活用に向けた取組の推進｣といたしまして、予約システムやスマートロックの導入等を行います。

「かわさき１０年戦略」につきましては、以上でございます。

４４ページは、ＳＤＧｓ未来都市としての本市の取組をまとめたものでございまして、後ほど御覧いただければと思います。

４６ページからは、行財政改革第３期プログラムに基づく行財政改革の取組をまとめておりまして、令和６年度予算に反映した行財政改革の効果額として、全会計で５０億円を確保したところでございます。

５４ページからは、市民に身近な各区の取組を紹介しておりまして、下段には完成予定の主な施設と道路、公園緑地、街路樹の維持管理予算を掲載しております。このうち、公園緑地、街路樹につきましては、全国都市緑化かわさきフェアの実施を契機

といたしまして、令和６年度から維持管理水準を大幅に向上させてまいります。また、６４ページからは参考資料と計数資料を掲載しておりますので、後ほど御覧ください。

以上が令和６年度の予算概要でございます。予算に掲げました様々な取組を、私をはじめ、職員一丸となって全力で進めていく所存でございますので、御理解、御協力をお願い申し上げます。

次に、令和６年度の主な組織改正について御説明いたしますので、お手元の資料を御覧ください。

初めに組織改正の考え方ですが、令和６年度は市制１００周年という歴史的な節目を迎えるとともに、本庁舎での業務が本格稼働となる中、脱炭素社会の実現に向けた一層の再エネ普及や臨海部における国の水素・炭素循環プロジェクトの推進、コミュニティ交通の取組の深度化、市立看護大学大学院の開設や新川崎地区への新設小学校の開校準備など、川崎市総合計画に掲げる政策・施策の実現に向けて、効率的かつ効果的な執行体制を整備し、組織の最適化を図るものでございます。

次に、「主な組織整備」でございますが、（１）「生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり」では、①のとおり、令和７年４月の市立看護大学大学院の開設に向け、施設・整備等の整備など設置準備業務に対応するため、健康福祉局市立看護大学事務局に大学院設置準備担当を設置いたします。

２ページに参りまして、（２）「子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり」では、②のとおり、令和７年度からの新川崎地区への新設小学校の開校に向け、教育方針、学校教育目標、教育課程などの策定を円滑かつ確実に進めるため、教育委員会事務局学校教育部に、（仮称）新小倉小学校開校準備担当を設置いたします。

（３）「市民生活を豊かにする環境づくり」では、①のとおり、太陽光発電設備等の促進事業の運用や新たな補助制度の創設、公共施設への再エネ導入等の効率的な推進を図るため、環境局脱炭素戦略推進室の執行体制を見直し、再生可能エネルギー企画担当と再エネ普及・スマートエネルギー促進担当に再編いたします。

３ページに参りまして、（４）「活力と魅力あふれる力強い都市づくり」では、①のとおり、国のＧＸ実現に向けた施策と連動した水素供給や炭素循環に関わるプロジェクトを推進するため、臨海部国際戦略本部成長戦略推進部にプロジェクト推進担当を設置いたします。

また、②のとおり、令和７年度の地域公共交通計画の改定に向けた路線バスネットワークの検討やコミュニティ交通について、さらなる実証実験と新たなエリアでの新規の取組等を行うため、まちづくり局交通政策室の執行体制を見直し、地域公共交通

推進担当、コミュニティ交通推進担当などに再編いたします。

（５）「誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり」では、「共に支え合う地域づくりを推進する身近な地域の拠点」として、区役所内の連携体制の強化を図るため、日吉、橘、向丘、生田の各出張所について、区民サービス部からまちづくり推進部に移管します。

４ページに参りまして、２「その他行政体制の充実」でございますが、③のとおり、教職員の服務規律の確保や不祥事の未然防止策の強化を図るとともに、教職員がより相談しやすい環境づくり等を目的として、教育委員会事務局職員部に予防監察・相談調整担当を設置いたします。

５ページ以降は組織改正図を添付しておりますので、後ほど御参照いただければと思います。

主な組織改正についての御説明は以上でございます。

続きまして、今議会の主な議案について御説明いたしますので、お手元にお配りしております「議案概要」を御覧ください。

初めに、議案第６号「川崎市コミュニティセンター条例の制定について」でございます。川崎区役所及び支所の機能再編と支所庁舎の建て替えに合わせ、地域に親しまれ、誰もが気軽に立ち寄りたくなる地域のシンボルとなる拠点として、大師と田島にそれぞれコミュニティセンターを整備するため、この条例を制定するものでございます。本施設は、田島と大師のこども文化センター及び老人いこいの家の機能を継承するとともに、地域の居場所や身近な活動の場を提供することで、子どもから高齢者まで多世代の交流や市民創発の活動をより一層活発にし、共に支え合う地域づくりにつなげることを目指しております。３月に大師、１０月に田島の施設整備等を行う事業者の公募を開始し、指定管理者の選定や愛称を募集しながら、供用開始は大師が令和１０年３月、田島は令和１０年９月を予定しております。

次に、議案第５７号から議案第６５号までは補正予算でございます。このうち、一般会計補正予算の内容といたしましては、令和５年１１月に閣議決定されました「デフレ完全脱却のための総合経済対策」を踏まえ、物価高騰の影響が特に大きい低所得者世帯への支援のため給付金を支給するもの、国の補正予算を活用して、義務教育施設の整備等の予算を前倒して計上するもの、民間保育所等において、試行的に「こども誰でも通園制度」を実施するため支援等を行うもの、その他として、令和６年能登半島地震における被災者への寄附金等を基金に積み立て、円滑な被災者等支援対策事業を行うものや、事業の執行見込みに合わせて補正するものなどでございまして、特

別会計、企業会計を含めた補正額の合計は４６３億円余でございます。

なお、議案第４号につきましては、戸籍法の一部を改正する法律が令和６年３月１日に施行されるため、また、議案第５７号のその１補正につきましては、低所得者世帯等に対する支援の取組を可能な限り早急に進めるため、先行して議決をお願いするものでございます。

また、追加議案といたしまして、政省令の公布に伴い、「川崎市指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営の基準等に関する条例の一部改正」など、施設や事業の人員、設備及び運営の基準等に関する議案２０件、「川崎市国民健康保険条例の一部改正」及び「川崎市立看護短期大学条例及び川崎市立看護短期大学奨学金貸付条例を廃止する条例」の合計２２件の条例議案、並びに「令和６年度川崎市一般会計補正予算」並びに「川崎市副市長の選任」など計３件の人事案件を提出する予定でございます。

いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりでございます。市議会の皆様とは真摯に議論させていただき、両輪となって市政を運営してまいりたいと思います。

私からは以上です。

【司会】　それでは、ただいま御説明いたしました本日の議題に関する質疑に移りますが、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願いいたします。

【日経（幹事社）】　日経新聞です。まず、予算についてお伺いします。目的別レビューと実額の伸びが一番大きいのは教育費になっています。新しい小学校建設ですとか、そういう箱物整備があって、小学校でいくと１７９億と大きいんですけれども、市長の狙いというか、教育費の積み増しについて思いをお聞かせ願えますか。

【市長】　新設小学校はあるんですけれども、そこが予算額的には多いんですが、先ほど申し上げたとおり、ＧＩＧＡスクール構想をよりよく使いこなしていくための仕組みに予算が使われることと、それから不登校対策は喫緊の課題になっておりますので、そこにしっかりと予算づけをして執行していくことになりますので、ソフトのところが重要なところかと思っております。

【日経（幹事社）】　ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】　幹事の毎日新聞です。予算の中で防災対策ということで、不燃化ですとか耐震化ですとかいうことが含まれています。関連してなんですが、今回の能登半島地震、市のほうでも関連分野で一生懸命派遣されて、いろいろな経験、知見が

積まれたと思うんですけれども、今回の予算で挙げられているような防災対策等を実施していく上で、現地の経験、知見で上がっている報告で何か特に役立ちそうなものがあれば教えてほしいです。

【市長】　今回、避難所による避難が非常に長期にわたっていることが特徴かと思います。もともと地縁組織が非常にしっかりしているところなので、自助、共助の部分が非常にボリューム感が大きいと思っていますが、本市の場合だとなかなかそうもいかないのではないかと。あるいは避難所を確保することも非常に難しいという形からすると、かつ人口密集地の中で災害弱者と言われている方たちが非常に多いことを考えると、具体的に一人一人の個別避難計画をしっかりと立てていくことがとても大事だと思っています。これ、能登半島地震（※補記）を受けたからやり始めようということではなくて、課題としてはずっと認識していて、当初からやる予定だったんですけれども、改めて能登の地震を受けて、個別の避難計画をしっかり整備していくことが大事だと思っています。

高齢、それから障害のある方たちを具体的に一人ずつどうするのかということは、総論ではできていたとしても、具体に一人一人に詰めていくと実態はそうならないのではないかという、地域の声もそれぞれで、これは立てていくには相当な労力が必要だと思いますが、必ずやり遂げなければならない課題だと思っていますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

【毎日（幹事社)】　ありがとうございます。

【産経（幹事社)】　産経新聞です。令和６年度の予算案について、名前をつけるというか、ネーミングやキャッチフレーズをつけるとしたらどういうふうに……。

【市長】　非常に難しいんですが、毎年すごく悩んでいて、今年１００年ですから、「１００年、その先予算」と思っています。その心はと申しますと、やはり今年、新しい産業面、基盤整備というところで動くところは非常に大きい。南渡田のほうもそうですし、扇島ですとか、それから新川崎も新たに基本計画を立てていくということで、掲げております量子イノベーションパーク、そしてそこから生まれ出す最先端の産業のクラスターというものをつくっていくという意味では、これからの５０年、１００年を見据えた新しい産業をつくり出していく、そういった取組と、それに伴う基盤整備、あるいは南武線の連立の都市計画決定もございますし、こういった大きな基盤をやっていく一方で、やはり私たちも現在、人口は増えていますけれども、人口減少はもう目に見えていますから、そのための資産マネジメントをしっかりやっていかなくちゃいけないと思っています。

ですから、予算規模としては大したことではないかと思いますが、例えば学校施設の有効活用という意味では、みんなの校庭プロジェクトですとか教室シェアリングだとかというあるものをどうやってうまく使っていくか。先ほど議案の中で、コミュニティセンター条例の話もありましたが、１つの建物で１つの世代だとか目的のためにやっていくというよりも、みんなで空間だとか時間だとかというものをシェアして有効活用していく、あるものをうまく活用していくという持続可能な資産マネジメントをやっていかないと、これからの１００年を耐え切れないと思っていますから、そういった意味では、ハード面の部分とソフト面というところを両方、かなり長期スパンで見ていく、そんな取組を今年やっていくのかなと思っています。

【産経（幹事社)】　もう１点よろしいですか。

【市長】　どうぞ。

【産経（幹事社)】　収支フレームをにらんだときに、３７億円収支不足が拡大するというところはどう受け止めているんでしょうか。

【市長】　厳しいところですけれども、やはりこれだけ物価高騰が続いていて、歳出はばんばん増えていく。だけど、税収に反映してくるのは、やっぱり１年、２年先という形になってきますので、そこのラグは当然出てくると思います。今、非常に厳しいところですけれども、単年度で一喜一憂するというよりも、少しロングスパンで見ないといけない。ロングスパンとは言いませんけれども、数年単位で見なくちゃいけないかなと思っています。

【日経（幹事社)】　各社さん、どうぞ。

【読売】　読売新聞です。能登半島地震の絡みなんですが、木造住宅の倒壊ですごく大きな被害が出たということで、川崎市も木造住宅の耐震化助成制度というのがあると思うんですが、もうちょっと対象範囲を拡充するとか、現在、旧耐震基準の住宅を対象にしていると思うんですが、それをもうちょっと拡げるとかそういったお考えはございますか。

【市長】　耐震化の話というのは、私たちも手を替え品を替えみたいな形で、これまでも取り組んできました。いわゆる必要な人に本当にやってもらえないという部分があって、木造でかなり古くて危ないところに高齢の方が住んでいるというパターンが非常に多くて、お願いしますという形で言っても、もういいわ、もう年だしという形でお断りになっていたのを、数年前にメニューを少し変更して、何とか取り組めるようにやって拡充してきました。今年も拡充する予定です。おかげさまでという言い方は間違っていますけれども、今年、やっぱり能登地震の影響が多いのか、相談件数も

申請件数も既にかなりいただいておりまして、そういった意味では、このタイミングでそうおっしゃらず、自分の身を守る意味でも耐震化ですが、まず診断、耐震化の工事という形に進むように、しっかり促していきたいと思っております。

【読売】　新しい耐震化基準の下で建てた住宅にお住まいの人も、やっぱり助成を受けたいという人もいらっしゃるんじゃないかと思うんですが、もう４０年近くたつと思うので、その辺、何かお考えはございますか。

【市長】　改めて能登だけ見るのかどうかというのはあれなんですけれども、旧耐震のところがやはり倒壊してしまうということがあるので、まだ私たちのところでも旧耐震のところが残っていますので、そこが重点としてまずやっていかなくちゃいけないところだろうと思っています。

【神奈川】　神奈川新聞です。先ほど「１００年、その先予算」ということでお話をいただきまして、ちょっと重複する部分はあると思うんですけれども、長期的な視点に立った市の将来像ですとか展望ですとか、市長が描いているものがあれば教えてください。

【市長】　日本全体、人口減少に入っていますので、国内で人口を取り合うということよりも、川崎市としては、世界と戦える都市をつくっていくことが大事なんだと思います。そういう意味では、こうやって先端の産業をつくり出していく、あるいは誘致していくという取組もそうですし、５０年、１００年を見据えて、世界基準で戦える都市をつくっていかないと、要は、みんなで埋没していくということはあってはならないと思っていて、そういう意味では川崎はポテンシャルがあると思っていますので、そこを最大限に生かしていくまちづくりを示していくことが、無理やり人を呼んでくるということよりも、自然に都市は成長する、そして成熟して世界と戦える形になっていくのではないかと思っています。

【神奈川】　ありがとうございます。続いて新規事業についてなんですけれども、市長の今のお話と関連するんですけど、越境ＥＣの取組があります。これはＥＣサイトを通じて、川崎が誇るものづくりを世界にアピールして販路拡大をしていくものだと聞いていますけれども、市長が期待するところを教えてください。

【市長】　これ、市長査定のところでも議論になったテーマなんですけれども、今年度から調査などをやっていて、来年度どうするかという、中途半端にやめるなと。数年間かけてしっかりと取り組むという形でやっていくことによって、今までＢｔｏＣみたいな形をやっていたんですけれども、ＢｔｏＢで継続的に取り組めるようなスキームを考えていかないといけないと。やっぱり中小企業の方、まだまだ海外での、Ｅ

Ｃを含めてなんですけれども、取組というのは、意識的にまだ、うん？　というものがあるので、ぜひそこのところは、円安状態ですから大きなビジネスチャンスだと思いますし、川崎は優れた技術がありますから、そういったところを海外に、この際、このタイミングで頑張っていこうということのために今回つけているということであります。

【神奈川】　ありがとうございます。

【読売】　読売新聞です。市制１００周年の事業で伺いたいんですけど、緑化フェアを契機にと先ほどお話があったと思うんですけど、市制１００周年と緑化フェアってどういうところで象徴的事業の位置づけとして捉えていらっしゃるのかという考え方の部分があれば伺いたいです。

【市長】　緑化フェアを１００周年にどう位置づけている……。

【読売】　１００周年事業の中に緑化フェアが象徴的事業として入っていると思うんですけれども、それを象徴的事業として１００周年事業に備えている理由みたいな考え方……。

【市長】　最後のところ、ちょっと聞こえづらいんですが。

【読売】　１００周年事業に緑化フェアを象徴的事業として位置づけている考え方とか理由みたいなところがあれば。

【市長】　ありがとうございます。今回、１００周年に緑化フェアをある意味誘致をしてぶつけてきたというのには、それなりの理屈があってです。やっぱり川崎って、発展の歴史の中で、ある意味、緑を潰しながらと言ったらすごく言葉が荒っぽいんですけれども、やっぱり住宅開発をして工場を建ててとか都市化していく中で多くの緑が失われてきた。その発展という、ある意味犠牲にしてきた部分もあるかと思うんですけれども、これからの１００年というのは、都市の中の緑というものを大切にして、質の高い緑を市民総ぐるみでつくっていく、創出していくという、これからの１００年をつくっていきたいという、そういったきっかけに緑化フェアを持っていきたいという思いであります。

これ、別にイベントとして捉えるのではなくて、緑化から始まる、いろんなレガシーというものをつくっていきたいと思っていまして、ちょっと先ほども御説明しましたけれども、グリーンコミュニティですとか、要は、緑を支える人たちというのは、今、残念ながら、非常に高齢化していて、あるいは特定の団体、人たちにお願いしているということではもうもたないわけで、そういった意味では、新たなグリーンコミュニティをつくっていくだとか、あるいは先ほど、予算も今年、かなり多くつけてお

りますけれども、街路樹ですとかそういった緑の整備についても管理水準を少し引き上げていこうということを、これは単年度の話じゃなくて、これからの緑の質を上げていこう、それがまちの価値になると思っています。そういった意味での象徴的な事業ではありますけれども、イベントにすることなくということは強調させていただきたいと思います。

【読売】　１００周年事業の中で、「Colors, Future! Summit」ですとか、７月の記念式典とかあると思うんですけど、市長が一番目玉だと考えているものはどういう部分になりますか。

【市長】　どれが一番というのは非常に難しくて、先ほども申し上げたとおり、幾つもの核をつくるというところが大事で、一番はどれかと言われると、実はそのコンセプトではやっていないということなんです。だから、年間を通しての一つ一つの核をつくっていくと。その核の中に、多くの皆さん、市民を巻き込むような取組を行っていくということであります。

【読売】　分かりました。あともう１点、昨年度予算に比べると、新規事業が減って拡充がちょっと増えたかなという印象を受けたんですけど、その部分は市長として、今年度の予算は昨年度と比べてどういうふうに受け止めていらっしゃるかという部分。

【市長】　新規事業については、結構出っ込み引っ込みがありますので、目新しいものが少ないんじゃないのと思われるかもしれませんけれども、あまり気にしていないというか、そういう意味では、去年のほうが多分新規事業は多かったんじゃないかと思いますが、こういう出っ込み引っ込みあるので、特に新規事業が多い少ないであまり気にしたことはないということです。

【読売】　先ほど名前をつけられた「１００年、その先予算」というのを踏まえると、今年度の中で一番市長として、次に１００年につながるとお考えの部分はどういうところになりますか。

【市長】　それは先ほど申し上げたとおり、例えば新川崎の取組についても、予算上なかなか見えづらいと思いますけれども、確実に今後の５０年、１００年をつくる取組をやっていくことにもなりますし、臨海部の取組は予算上でも相当厚くなってきておりますので、そういった意味では思い入れは非常に強いと感じています。ただ、これまで言ってきた脱炭素の取組も避けて通れない話なので、これも予算上はそれほど現れませんけれども、川崎未来エナジーができて、それだけではなくて、太陽光設備だとか蓄電というものにしっかりと普及させていく取組でありますとか、あるいは高齢化になってきて、昨年度、これもニュースになっていると思いますが、救急出動み

たいのが過去最多を記録していますので、それにしっかりと対応できるように、６年度、７年度に救急車を増隊していくとかという、そういった細かい取組も行っていくことが大事かなと。華々しくということではなくて、着実に安全安心ということも含めてやっていくことが大事かなと思っています。不登校対策にしてもそうですし、あるいは発達相談センターみたいなところ、非常に需要が高まっているところを各区に整備していくということもそうですし、こういった細かな市民ニーズをしっかりと拾っていくことが大事かと私は思っています。

【読売】　そういう細かな市民ニーズを今回反映……。

【市長】　そうですね。大きな話も細かいところもということだと思います。

【読売】　ありがとうございます。

【朝日】　朝日新聞でございます。先ほど、５０年、１００年先の産業をつくり出すとおっしゃいましたけれども、今後の川崎の中核的な産業として市長が掲げるのは、水素関連産業と量子コンピューターを活用した量子技術を使った、コンピューター技術を使った産業と、あとどんなものがあるんでしょうか。

【市長】　量子だけではなく、この前も慶應義塾大学（※補記）さんとの協定を新たに結び直しましたけれども、量子というもの、今、国のプログラム（※補記）でやっているのは量子と既存コンピューター、いわゆるスーパーコンピューターあるいはＡＩというものを駆使した取組をやっています。こういった最先端の技術を、量子単体でというよりも、より効果的に進めるための取組を今やっているので、それを早く実証レベルというか、スタディーから実装に変えていく、産業化していくことが大事だと思うので、そういう意味では、リアルなクラスター形成が今進みつつあるので、新川崎でも、そういったところに力を入れていきたいと思いますし、水素は単なるエネルギーだけの問題ではないので、あらゆる化学の基となるようなものですので、化学の世界でも革命を起こしていくようなことになるんだと思います。ですから、そういう意味では、いわゆる科学技術系というところとか化学といったところ、あるいはエネルギーといったところにも、川崎は、手前みそではありますが、企業の皆さんと一緒に、世界に伍する、そういった取組ができるのではないかと思っています。

【朝日】　すみません、細かい点なんですけど、「カガク」は漢字はどちらの「カ」ですか。

【市長】　「化学」のほうです。

【朝日】　あと、ごめんなさい、先ほどのキャッチフレーズなんですけど、「１００年、その先予算」なんですが、「１００年」の後は点切れにしますか、それとも１升空けに

しますか。

【市長】　点切れですかね。

【朝日】　点切れですか。

【市長】　点切れで。

【朝日】　「１００年、その先予算」。

【市長】　はい。

【朝日】　かしこまりました。

【市長】　ありがとうございます。

【時事】　時事通信社なんですけど、さっきの質問の関連、私、今回、当初予算案というのは初めて拝見したんですけど、やっぱり重点戦略の中で新規事業が意外に多くないなという印象を最初に受けて、今年８つぐらい、去年、数えてみると１２ぐらい。３つか４つ少ないぐらいの感じなんですけど、新規事業ってアイデアとか発想とかそういうのにつながるあれで、市の活性化にも、全部が全部採用されればいいというものじゃないと思うんですけど、新規事業がたくさんあるというのはそれだけ自治体の活性化にもつながるようなイメージがあると思うんですけど、今回査定の中で、さっき気にしないとおっしゃったんですけど、取るに足らないものが多かったのか、それとも、ほかにいろいろ必要な予算があって、なかなか手が回らなかった、その辺の印象があれば伺いたいんですけど。

【市長】　印象とすれば、あまり気にしないというのは本当に言葉どおりなんですけれども。というのは、昨年やっているのを充実させているとかというのがあるので、毎年毎年新規が出てくること自体、どうなのかというのもあります。僕、今年年頭の挨拶で職員向けにも言ったんですけれども、新しい政策をやっていくためには、呼吸と一緒で、まずは吐こう、そしてその後吸うという話を言いました。というのは、どんどん、どんどん吐いて、やめるものをやめていくとかということをやらないと新しい事業が出ていかないというのは、それはマンパワー的にもそうですし、財政的にもそうかもしれないしということがあるので、やっぱりそこはアイデアがないということではなくて、そのタイミングに必要なものを確実にやっていくために、人、物、財源をしっかりと調整していくということなんだと思います。

【司会】　そのほか、御質問いかがでしょうか。それでは、本日の議題に関する質疑についてはこれで終了いたします。議題に関する関係者は、一度退席いたします。恐れ入りますが、しばしお待ちください。

【市政一般】

大変お待たせいたしました。引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けします。進行につきましては、改めまして幹事社各社の皆様、よろしくお願いいたします。

≪ふるさと納税について≫

【ｔｖｋ】　予算関連、ちょっといいですか。ふるさと納税の件なんですけれども、ずっと拡大が続いているということで、かなり抜本的な何かが必要なのかと思うんですけれども、市長はその点どう考えていらっしゃいますか。

【市長】　本当に看過できない状況ですので、正直、正論を言っていても、ふるさと納税で恩恵を受けている自治体は１，５００自治体ぐらいあるので、圧倒的多勢に無勢なので、正論は言い続けなくちゃいけないですけれども、しかし、それだけでは流出して、市民サービスに影響が出てくるということでありますので、メニュー拡充はもちろんのことですけれども、あらゆる手を使ってふるさと納税を獲得しようという、本当に攻めに出ようということを今年言っております。今、あらゆる知恵を出し合っているところでありまして、頑張っていきたいと思います。

【ｔｖｋ】　あらゆる手というのは、具体的に事例とかあったりしますか。

【市長】　今、ぱっと申し上げられるものはないんですけれども、今、みんなで知恵を絞っているところです。言い方が悪いですけれども、本当に川崎市、こんなのやっていいのかって言われるぐらいのことをやってみたいなと思っています。そうじゃないと、はっきり言って、この制度はおかしいと市民の皆さんに言ったって、だったら、川崎ももっといいメニューを考えたらと言われるんだろうと思います。ですから、いろんな条件で厳しい部分はありますけれども、ない知恵を絞って頑張っていきたいと思っています。皆様の知恵があれば教えてください。

【ｔｖｋ】　ちなみに、市長がおっしゃる正論というのはどういうものなんでしょうか。

【市長】　現状からすると、もともとのふるさと納税の理念とはかけ離れている、もうカタログショッピングだということで、納められるべき税金が肉や魚やお米に代わりというのはこれは一体何だと正直思っています。これがふるさと納税なのかということを強烈に思っていますが、当初の理念から逸脱しているということです。かつ高額所得者ほど、ふるさと納税で得をするということからも、上限額の設定などを国に訴えてきておりますけれども、なかなかそういった方向にならないというのは、やはりそれでもって恩恵を受けている自治体があるからだと思います。ただ、全体として、本来納められる税金が商品に変わってしまっているわけですから、自治体総額として、総額として自治体が受け取る税金は減っているわけで、みんなが損しているんだと、

自治体全体として、そのことをしっかりみんなで認識しようということだと思いますが、正論を言ってもなかなか通じないなというところが悲しいところでありますので、川崎市、こんなことまでやるのかというような、多少ずるいと言われるようなメニューでも考えたいと思うんですが、なかなかその知恵も、みんなで考えようというレベルでございます。

≪市長３期目の自己評価について≫

【ｔｖｋ】　ありがとうございます。すいません、もう１点いいですか。

【市長】　はい。

【ｔｖｋ】　ちょっと気が早いんですけれども、新しい予算を考え始める時期ということで、３期２年目が終わるところで、これまでの２年間、市政評価としては市長自身はどう捉えられていますか。

【市長】　この２年間をですか。

【ｔｖｋ】　まず、これまでの２年間。

【市長】　掲げている公約については着実に進んでいるところもあると思いますけれども、例えば特別市に向けた動きはまだ道半ばほども進んでおりませんので、そういった意味では、さらに今年、頑張っていきたいと思っていますし、まだまだ評価、自己評価というのはしていませんけれども、まだそういう評価の段階ではないのかなと思っております。

【ｔｖｋ】　ありがとうございます。

≪等々力緑地へのアクセスについて≫

【東京】　真面目な話が続いた後にふざけた話で申し訳ないんですけれども、今朝、「等々力迷宮」という言葉がツイッターのトレンドに入ったようで、Ｊリーグの開催を前にした、Ｊリーグが作った動画の中で、他チームのサポーターがフロンターレのサポーターについていって、武蔵小杉駅に帰りたいのに、気がつくと等々力周辺の住宅地のほうに入っていっちゃったり武蔵中原駅のほうに行っちゃったりみたいな、等々力周辺の分かりにくさというものを取り上げられたようなんですけれども、そのことについて市長御自身の思い当たる点とか、ちょっとこういうところを改善したほうがいいかなと思うところとか、とはいえ、住宅に近いところにある等々力のよさみたいなのもあるとは思うんですけれども、一言コメントをいただけたらと思うんですが。

【市長】　どういう流れでツイッターに上がっていたのかというのはあれですけれども、やっぱり多少駅から離れているので、これは緑化フェアのときもそうなんですけ

れども、どうやって動線を分かりやすくするかなというのは課題でもありますので、今後もうまい工夫がないかと考えていきたいとは思います。そんなこと言われているんですか、迷宮。

【東京】　特に分かりにくいという印象はないですか。

【市長】　そうですかね。地元なのであまり感じてなかったのかもしれませんけれども、そういう声があるのであれば、しっかり真摯に受け止めたいと思います。

【東京】　すみません、ふざけた話で。

【市長】　いえいえ。

≪令和６年第１回川崎市議会定例会議案等について≫

【産経（幹事社）】　予算の話にちょっと戻ってしまうんですけれども、先ほどの市長の話で、人口減少が続くと。人口を国内で取り合うのではなくて、世界と戦っていくものの構築ということが大切だというお話だったんですけれども、それと今回の１００周年記念事業とか緑化フェアって何かつながりってありますかね。それ以外の事業は結びつくのは分かるんですけど。

【市長】　何ていいますか、必ずしも一致しているということでは。今申し上げたのは、将来の川崎像みたいなもの、将来像についての御質問にお答えしたんですけれども、そういった意味では、１００周年で関わってくること、たくさんあると思います。例えばですけれども、先ほど説明した若者文化なんていうのも、川崎から世界というものが非常に近くなったということも象徴的な取組の一つだと思います。まさに今回、ブレイキンみたいのがパリに行くというのも、また、若者が挑戦したいと思うんだったら川崎へと集まってくるのは、国内からだけではなくて国外から川崎に集まってくるというので、川崎に世界的ないろんなプレーヤーだとかが集まってきて、そこで磨かれたものがさらに世界に発信していくというのも、産業だけではない。そういった人材育成も含めてやっていくものだと思うので、決して関連しないことはないと思いますが、一つ一つ全部それにひもづいているかというと、ちょっと無理があるかもしれません。

≪ヘイトスピーチについて≫

【毎日（幹事社）】　すみません、ヘイトスピーチ関連ですけれども、１月の削除要請の中には、具体的に特定地域の住民に対して、身体に危害を加えることを煽動するとか、かなり深刻な内容の文言があったと思うんですね。要請して対処するんでしょうけれども、その間ずっと出たままという。危害を加えるということで初めての事例だと思います。市長として、そういう状態が続いてしまうことに対することを改めてど

のようにお考えかということを伺いたいのと、あと警察との連携ですよね。なかなか刑事的なアクションを取っていくのは簡単なことではないやにも聞きますけれども、その辺、どう考えているんでしょうか。

【市長】　まず最初の質問に対して、削除要請と実際に削除される場合とされない場合もありますし、そこについては、さきの記者会見でも申し上げましたけれども、やはりプロバイダー側の社会的な責任もあるのではないかということを申し上げましたけれども、その考え方に変わりはありません。そういったサイトを設けているわけなんで、その人たちが、表現の自由ということだけでまかり通るのかというのは、都度、私は思っていることですので、それについては、個人的な思いでありますけれども。刑事の話になると全く別な次元の話になってくるので、少なくとも私たちの今持っている条例という中では、なかなか対処しづらい部分があると思っています。

≪朝鮮人労働者の追悼碑撤去について≫

【神奈川】　神奈川新聞です。先日、群馬県で朝鮮人の追悼碑が撤去されるということが起こりました。一部で暴挙だという声も上がっていますけれども、川崎市は、朝鮮人だけじゃないんですけれども、様々外国人との共生に取り組んでいると。ヘイトスピーチも含めてですけれども。そうした川崎市の市長として、今回の事態をどういうふうに受け止められたのか、お聞かせいただけますか。

【市長】　すいません、僕もタイトルぐらいしか見てなくて、どういったものが、どういう背景になっているのかというのが実は分かってなくて、お答えするに持っている情報が少な過ぎてすみません。

【神奈川】　いえ、川崎市とはあまり関係なかったと思うんですけど。じゃ、機会があればお聞かせください。

【市長】　はい。どうぞ。

≪ビッグモーター関連の状況について≫

【朝日】　朝日新聞です。先日、ビッグモーターの本社社員が神奈川県警に逮捕されまして、逮捕者は全国で初めてということなんですが、川崎店の前の街路樹を伐採した容疑ということで、川崎市が被害届を出されていたんですが、これについての受け止めを教えていただけますか。

【市長】　全容はどうだったのかというのは、しっかり調べていただきたいと思います。要するに、現場の人たちが勝手にやったわけではないでしょうと思いますので、どういう経緯があったのかということをしっかり明らかにしていただきたいとは思っております。

【朝日】　被害届を出されていたので、一応、逮捕については県警から逮捕後、何か川崎市に一声あったんでしょうか。

【市長】　あったのかもしれませんけれども、私自身は聞いておりませんので。

【朝日】　そうですか。かしこまりました。

【司会】　そのほか、質問いかがでしょうか。

それでは、以上をもちまして本日の記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当